夕刊
常磐新聞
祭日・日曜・休
定價（一ヶ年）三圓十錢　送料（一ヶ月）十五錢
廣告料（一行）五十錢　場所指定廿錢增
福島縣平町南町　發行人　鈴木禎亮
發行所　常磐新聞社

耳鼻咽喉
增田醫院
平町南町一

未だ逆堵し難き
猛烈な縣議戰の展望

中部は　萩原井上の一騎打
北部は　草野田子の肉迫戰
南部は　石川赤坂の白兵戰

戰端開かれてより數旬磐陽の天地より立候補せる八名の戰士は中原の鹿を射止めんとして血みどろの戰を續けてゐる、民政四名政友三名にして最も激戰地は中央部即ち平町を中心とした内郷、湯本の方面にして政民兩黨と無産派の大混戰を展開しつゝある現況である、として死守すれば政友派は井上候補を押立てゝ民政の牙城に逼り猛烈なる肉迫戰を演じつゝある時民政派の野崎候補も此處を先途と三者入亂れて火花を散して戰つてゐる、各候補の形勢は今逆堵し難き狀態なるも、比佐代議士を背景として立てる萩原候補に選擧民の注意力が傾きつゝある事は見逃す可からざるものであるが、此地盤は元々政友會であると共に前回の縣議戰に苦杯を嘗めてゐる、井上候補者にも相當の同情者を吸收しつゝあるものであれば萩原井上兩氏の得票爭ひになるであらう、地方部の分野は北部に民政の草野候補と田子候補の戰で手腕の草野氏と策者の田子氏の一騎打こそ見物である、然し四十余年民政の今日迄惡戰苦鬪せられたる功大なる草野候補に酬えらるゝ秋が來たものなれば仝候補の北部民政の投票は敢然と集まるものである、田子氏の勢力又沒すべからず、佐藤庄太郎氏を尻押としたる仝候補も北部政友會の投票は仝候補のものである、郡南の方部を見れば上遠野の雄赤坂候補と湯本の勇士石川候補の對戰であるが民政郡南の投票は石川氏が絶對多數獲得し得るものなれば大方部を守る石川候補は安全地帶に在るものと云ふ可きである、然し赤坂氏の潛勢力侮る可からざるものである、各候補の一般勢力を展望するに各氏とも樂觀を許さず、評判よき者評判倒れとなりつゝ同情投票意外に得るものなれば此處二三日の經過を待つにあらされば逆堵し難きものである、

草野三郎君

……事務長　鈴木久太郎君……

現縣參事會員としてその德望一世に高く全黨員崇拜を受けつゝありし若松美三氏は今回の縣會議員改選に當り、再三の同志の懇望もやむを得ず一身上の都合の爲辭退、自らそのふん頸の友草野三郎氏を推選獻身的應援を誓ひ草野氏又此處に快諾出馬を見るに至つたことは人情紙よりも薄き政界の現在に於て近來の美談として語り傳ひられて居る、草野氏は赤井村の人にして本年齡六十有二、若くして政界に入かの大隈候が組織せし改進黨の昔よりその幹流を爲す現在の民政黨に至る迄清節實に四十有五年、ありとあらゆる苦境に遭遇しつゝも氏の愛黨の權化にも似た自黨心は不拔不屈只々眼中黨あるのみ、自らは常に黒幕の人とし後輩を指導、その大成するを見ては、そかに微笑む氏の姿こそ誠に涙ぐましく若松氏好一對の政界稀に見る人格の人、今や民政部會の元老として黨員間に盤石の重きを爲すも豈愚然ならんや、而して氏は壯にして赤井助役村長を歷任、續いで消防組頭村會議員、郡會議員たること數期、今や石城郡地方開發の山積せる時、氏の如き人格者が推されて民政部會公認候補として遂鹿戰場に打つて出しは時宜を得たるものと言ふべく一般の同情と若松氏始め黨員擧つての努力と相俟つて必勝を期しつゝある

萩原義雄君

……事務長　吉田五平君……

氏は大正元年平町に齒科醫を開業、斯道に於ける大先輩にして現に鐵道囑託醫たると共に縣齒科醫師會々長の重任に在り、其の間民政黨の前身憲政會に入黨以來幹部として營々黨勢に盡粹、殊に現陸軍參與官比佐代議士が當時一無名の青年として名乘りをあげ遂鹿場裡に打つて出るや股肱の同志として終始一貫影の人としてあらゆる苦難を排し遂に比佐參與官、今日の榮譽あらしむると共に石城民政今日の大を致さしむるに甚大なる功績あり、現町會議員として既に二期今や要職部會幹事長として快刀亂麻的の氏の鋭才は名實共に大幹事長の譽高く全黨員敬愛の的たり今回擧黨一致推されて縣議戰に敢然中部を地盤として出馬せるが、新進氣鋭氏の如き才幹以てせば當選のあかつきは石城郡開發の爲に縣政運用上極めて見るべきものあらんと衆望自ら集り一般よりその當選を期待されつゝあり、因に氏は齡四十有四前途愈春秋に富む少壯政治家にして選擧事務長には之又斯界の老練家を以てなる町會議員吉田五平氏一切の指揮を爲し萬全を期しつゝある。

石川德壽君

……事務長　若松孝平君……

石城民政部會副會長とし湯本同志の總師として重きを爲す氏は又比佐參與官の懷刀とし今日の大成も氏に負ふるところ極めて甚大なるものがある、氏は人となり圓滿而も今尚壯者も三舍を避ける烈々たる氣概を藏して居る之れ即ち常に比佐參與官を補佐し、かの憲政會の當時に於ける苦節幾星霜つぶさに辛酸をなめ遂に今日大民政黨を誇る基礎を築いたのである宣べなる哉如何なる黨内の内外とを問はず少なくとも難解なる事件勃發に際し一度氏の聲かゝるや天馬空を行くの概を以て解決なれざるはなく比佐參與官をして後顧の憂なく中央檜舞臺に於て縱横の才を發揮し得しめるも氏の如き仁の存在に依るものである、別名石城の尾崎學堂と呼ばるゝも單に容姿のみにてはなく實に全黨員の興望を一身に負ふ日頃の氏の德の致すところである、今や湯本町議とし町政に參與し、重要案たる水道工事も既に着工せる今日南部鷲現縣議の跡を受けて立候補せるや金こそなけれ硫石に地元湯本町の多年訓練されし整然たる陣容と郡南各地黨員必死の應援とにより着々運動を進めつゝあれば今後の努力によりては有力なる當選候補の一に數へられつゝあり

★　★　★　★

本月廿五日縣會議員總選擧を行はるゝに際し過般開催の豫選會に於て同志各位の推薦を辱ふし不肖等揣らず立候補を宣することになりました

御承知の如く吾々は永らく民政黨に屬し憲政の神故河野磐州先生指導下に惡戰苦鬪を續け比佐代議士を中心として終始一貫今日に至つたのであります

今回各位の推擧により幸ひに多數有權者諸君の御贊成と御援助とを賜はり當選の榮を荷ひ得る事が出來ましたならば吾黨の主義政策を奉じ協力一致專ら産業の開發地方費負擔の輕減等縣民福利增進のため渾身の努力を捧け縣政の上に聊か貢献し以て各位の御期待に背かざる事をお誓ひ致します茲に立候補を宣するに當り所懷を披瀝し有權者諸賢の御同情に愬ふる次第であります

敬白

昭和六年九月十日

立憲民政黨公認
縣會議員候補者

草野三郎
萩原義雄
石川德壽

責任者石城郡平町一丁目三四鈴木盛之助

選擧の夜

選擧の夜……選擧の夜は異様の緊張に漲つてゐる自動車を飛す、辯論部の勇者、自轉者で走る使の者ビラを抱て事務所へ飛び込む印刷屋の小僧、果ては大道の真只中に政、民黨員が口角泡を飛はしての吾黨本意論に血眼になつてる者、眼を光らして右往左往する警官の人逢等々で戰時狀態の氣分が遺憾なく發揮され異狀の騒雜を極めてゐる夜行子もその氣分を視察すべく町へ出る、町は前にも言つた通りの氣分だつた夜行子は先づ當夜の激戰場である聚樂館へ足を向けて急く、觀戰者が場に溢れてゐる夜行子も常々萩原候補の包有する政綱を聞きたく思つてゐた矢先でもあり……

足早に入場すると豫想通り滿員席を取つた時が石城民政辨論部の寵兒小松茂君が演壇に立つた時だつた、いつも筋の通つたそして内容に富むでゐる演説だつたそして一度は老熟の域に入る態度と云ひ音聲と云ひ實際申分がなかつた。

次は中央部遊説部長木田藤次郎君が出る此の人町民からの頗る人氣男で同君の顔を見ると聽衆が喜んでヤンヤと手を打つ亦實際演説も堂に入つたものである君の吾れ〳〵の義務と云つても得意と諧謔的言辭には何んとも云ひぬ甘味がある申分いが云ふ事にも弱氣があつた三丁目の角で此の人達と別れて家の近所まで來る。カフェーの女給が二三人太へて愉快だつた。……!!!

★

終へたのが十一時三々伍々歸途の人々の話を聞きながら歸る。

「話」今夜の工合では萩原さんの當選すること疑ひなしさ……そんなこと初めから極まつてゐるんヂやないか、萩原さんのよ、な人のため世の爲めに終始すもる人格者を選出することは然るべしだ、大分鼻息も荒い脛もあらはに大道でダンスの稽古をしてゐたそれが萩原崇拜の夜行子としては戰勝祝賀の踊のよふにも見へて愉快だつた。……!!!

★

昭和六年九月

共濟病院 輕費診療 案内

郡下三十四ケ町村の囑託に依り斷然之れを施行す

◆診察料　共濟會員　無料　輕費診療　五十錢

◆藥價（一種一日分）　共濟會員　十錢　輕費診療　十五錢

◆入院料　一日分　共濟會員　輕費診療　二圓以上

◇衛生試驗　血液檢査、醫化學的檢査　何でも致します　遠慮なく御利用下さい

◆尙御不明の點は各町村長又は本院にて遠慮なく御聽き下さい

無料派選

今回特に巡回看護婦班を常置し當病院取扱患者（往診及外來重病）に限り御容態を伺はせることに致します

院長　石山謙郎

本院主管　賀澤忠治

磐城共濟會

◎診療時間午前八時より

▼公休日は廢しました

拜啓益々御淸穆奉賀候今回の縣會議員選擧は與黨たる吾黨としては頗る重大意義を有するものに有之候處貴區候補者たる

草野三郎君

萩原義雄君

石川德壽君

は何れも終始一貫純潔なる黨員に有之其人格識見に於て縣會議員として最も適任と存候間何卒當選致され候樣御同情御援助の程切に御願申上候

敬具

昭和六年九月

立憲民政黨

總裁　若槻禮次郎
總務　賴母木桂吉
常務顧問　富田幸次郎
顧問　江木翼　安達謙藏　町田忠治　井上準之助　田中隆三　小泉又次郎　原脩次郎　櫻內幸雄　山道襄一　大島要三

幹事長
福島縣支部長

東京市芝區新櫻田町二十七番地
立憲民政黨本部

拜啓時下初秋の候愈々御淸適の段大賀此事に御座候

偖來る廿五日執行せらるべき縣會議員選擧は本縣縣政上極めて重大なる關係を有する次第に有之本部會は其候補者詮衡に關し衆議に諮り愼重熟慮の結果人格識見共に卓越し而も敢然として淸節を全ふしつゝある

草野三郎君

萩原義雄君

石川德壽君

の三名を最適任者と認め茲に公認候補として推薦仕候今回の選擧は本部會としても實に重要なる意義を有する所に有之候間願くは微意の存する所を御賢察被下右三君共に大多數を以て當選の榮冠を得せしめらるゝ樣御援助を賜はり度切望に堪ざる次第に御座候　敬具

昭和六年九月

立憲民政黨福島縣支部
石城部會長　**比佐昌平**

平町仲町一五番地
世話人吉田五平